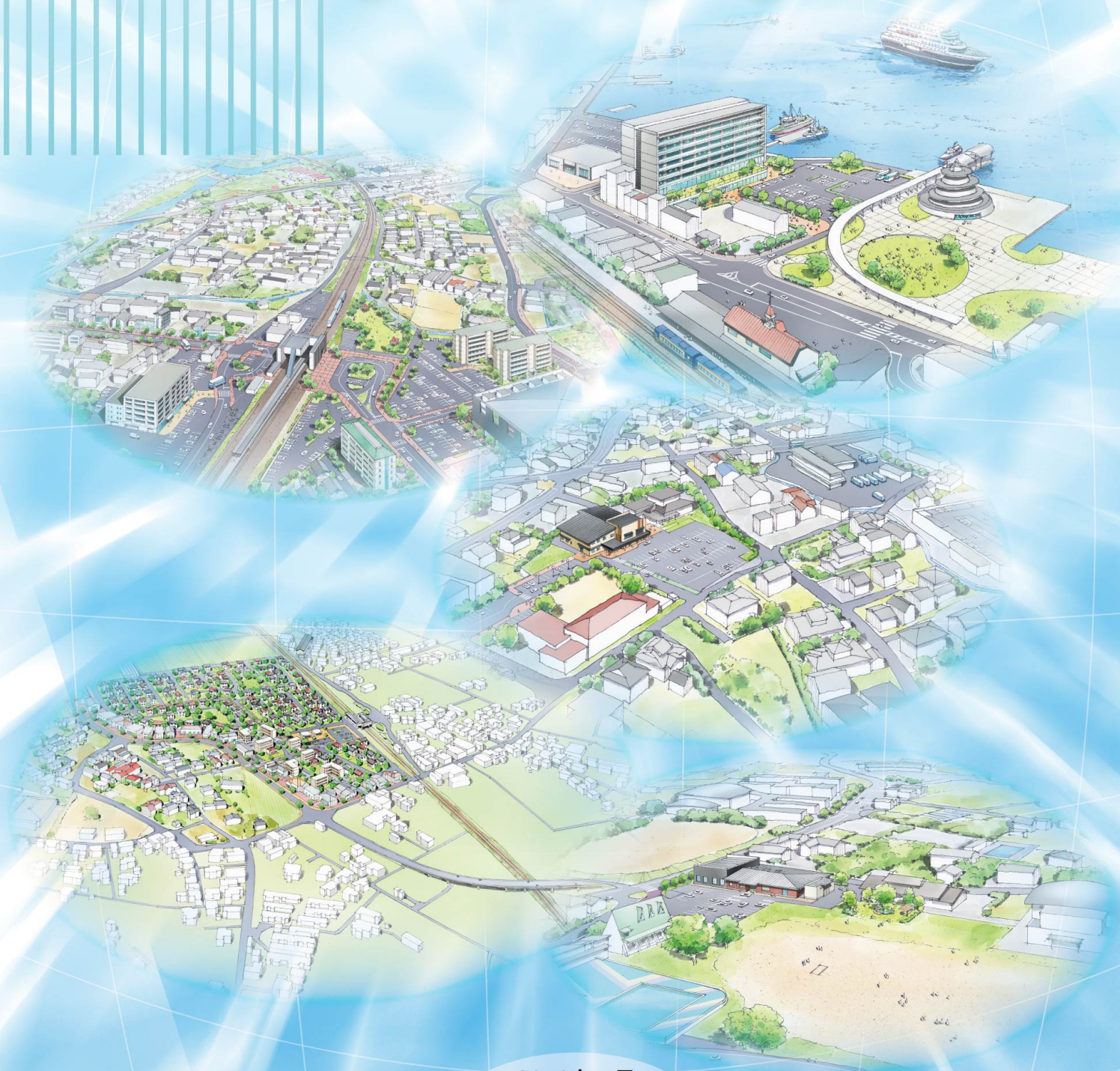


宇城市復興 グラウンド デザイン



2019年4月



熊本県宇城市

グランドデザイン 策定の趣旨

宇城市は、2005(平成17)年1月に5町が合併し、新しい市としてスタートしました。以来、旧5町の特性を活かしながら、新市建設計画の基本方針や「新市」ゾーニングの考え方に沿って行政、企業、団体、市民が一体となった「まちづくり」を進めてきました。

2016(平成28)年4月に、観測史上初となる震度7の揺れを2度観測した熊本地震によって、本市においても多くの負傷者が発生し、建物や公共施設、土木インフラ等に多大な被害をもたらしました。

本市では、2017(平成29)年3月に、震災からの早期復旧・復興を含めた総合的なまちづくりの指針である「第2次宇城市総合計画」を、更に2018(平成30)年3月には震災復興に係るハード面での短期的・重点的な取組の方向性を定めた「宇城市復興まちづくり計画」を策定し、市民の安全・安心の確保を大前提として、次世代に引き継ぐことができる「ちょうどいい!住みやすさを実感できる都市(まち)・宇城」を目指して様々な重点プロジェクトを推進しています。

合併から13年、熊本地震の発生から3年を迎え、本市では、「宇城市復興グランドデザイン」を策定しました。このグランドデザインは、これから総合計画や復興まちづくり計画に基づき、熊本地震からの復旧・復興を進めながら、本市の豊富な農産物や観光資源を活かした観光地域づくり、松橋駅、小川駅、三角駅の交通拠点と道路ネットワークを結ぶ新都市形成等を目指した「まちづくり」を推進するに当たり、中・長期的な視点に立ち、官民連携して取り組む重点プロジェクトの将来像を現しています。

また、これを「復興まちづくり」の戦略ビジョンと捉え、行政、企業、団体、市民が共有し一体となって、それぞれの役割を担いながら、このグランドデザインに示す新たな「まちづくり」の実現に向けて取り組んでいくこととなります。

目 次

■暗闇を襲った2度の激震

平成28年熊本地震による被害状況 01

■いざ、復興へ。

今後の「道しるべ」としての計画 02

■将来都市像 ちょうどいい! 住みやすさを実感できる都市・宇城 04

■「ちょうどいい!」実現に向けた施策

総合計画における「ちょうどいい!」を実現する重点プロジェクト 06

■三角地区における主な重点プロジェクト 08

■不知火地区における主な重点プロジェクト 10

■松橋地区における主な重点プロジェクト 12

■小川地区における主な重点プロジェクト 14

■豊野地区における主な重点プロジェクト 16

突然襲いかかった震度6弱と6強

2016（平成28）年4月14日午後9時26分。突然の地震が宇城市内を揺らしました。震度は6弱。2011年3月の東日本大震災以降、九州では初めてとなる大規模な揺れに、家屋などが倒壊した地区が続出しました。

市は、地震発生直後に災害対策本部を立ち上げ、市内14カ所に避難所を開設。人的被害、道路や水道などのライフラインの被害状況の確認に奔走しました。

そのような中、4月16日午前1時25分。経験したことのない震度6強の「本震」。この揺れで家屋の被害はさらに増加。最大20カ所の避難所を開設しましたが、車中泊をする人も多く見られました。



未曾有の災害に、見慣れた街の風景や人々の生活は一変しました。

しかし発災直後から、水や食料品をはじめとする多くの支援物資が全国各地から寄せられたほか、さまざまな形での支援をいただきました。



平成28年熊本地震による被害状況

暗闇を襲った2度の激震

いざ、復興へ。

● 今後の「道しるべ」としての計画 ●

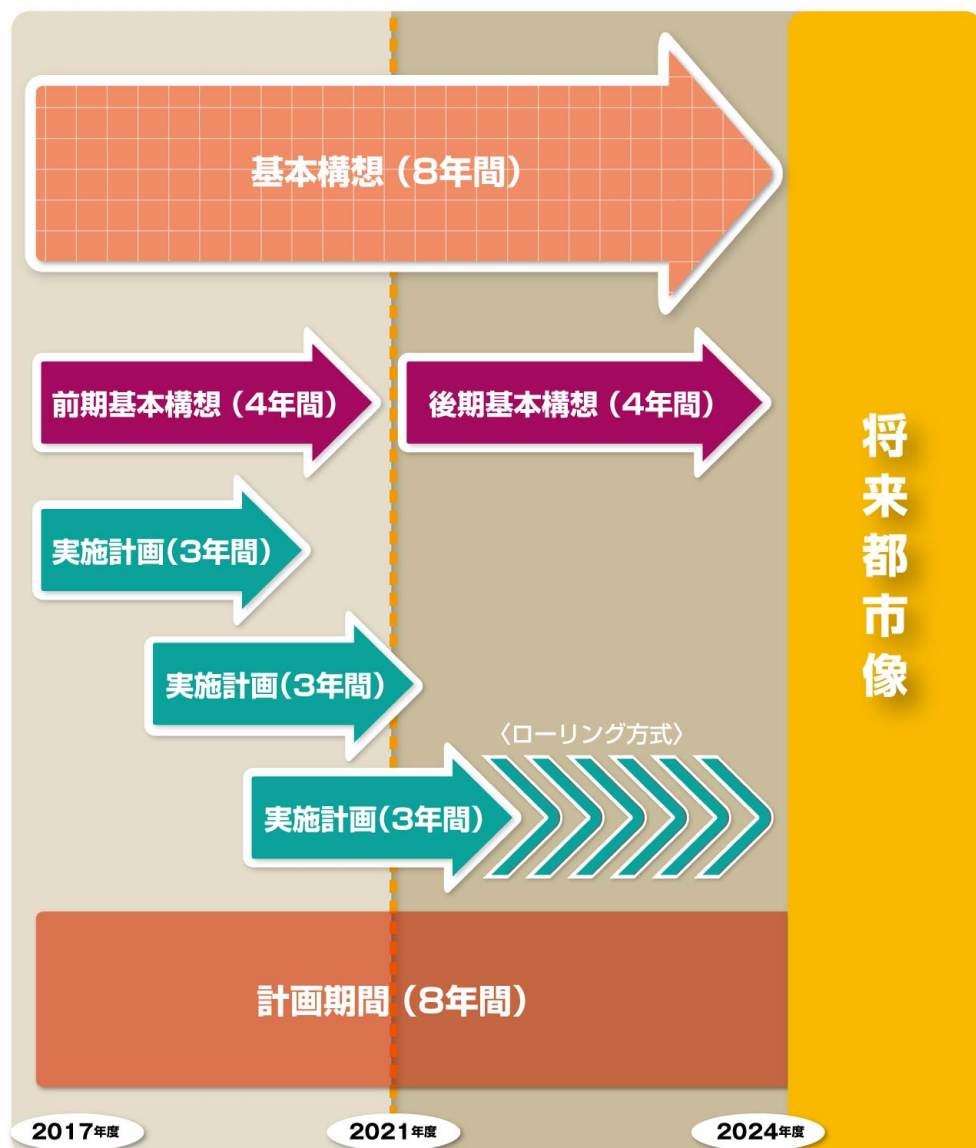
「第2次宇城市総合計画」の策定

宇城市として、熊本地震からの早期復旧・復興に向けた取組を最優先に行うとともに、今後どのような「まち」を目指すのか、どんなことに取り組んでいくのかをとりまとめた最上位の計画として、「第2次宇城市総合計画」を策定しています。

これから最優先で取り組む復興や教育、福祉、環境、都市計画といった全ての計画の基本となるものです。

計画の期間は、2017年度から2024年度までの前期4年、後期4年の計8年の計画です。

この計画では、「ちょうどいい！住みやすさを実感できる都市・宇城」を市が目指す理想に向けてのキーワードとし、市民の皆さんに「住みやすさを実感できる都市」と感じてもらえるよう、6つの基本目標を基に各種施策を展開しています。



「宇城市復興まちづくり計画」の策定

宇城市では一日も早い生活の再建を目指して、「第2次宇城市総合計画」に基づき、「宇城市復興まちづくり計画」を策定し、住宅を滅失し自力での再建が困難な被災者の生活の基盤となる災害公営住宅の建設、地域の防災拠点としての防災コミュニティ施設の整備を進めることで、災害に強く安全で安心なまちづくりを推進していきます。

1 災害に強い都市構造の構築

今後も布田川・日奈久断層や南海トラフ沿いでの巨大地震がいつ発生してもおかしくないという認識のもと、いざというときに安全な避難や迅速な応急対策活動を可能とするために、あらかじめ、その中心となる場所等を明示し、市民とも共有しながら、計画的な整備や活用の成熟化を進めます。

2 避難・応急対策活動を支える拠点の整備

防災都市構造上、拠点と位置づけた重要な場所について、それぞれの役割に応じた整備・機能強化や適切な活用を進めます。

- 市を代表する活動拠点の整備
- 住民に身近な活動拠点の整備

3 避難・応急対策活動を支えるネットワークの整備

防災都市構造上、ネットワークと位置づけた道路について、それぞれの役割に応じた整備・機能強化や適切な活用を進めます。

- 骨格的なネットワークの整備
- きめ細かなネットワークの整備

4 生活の拠り所となる住まいの確保

被災者が生まれ育った地域でこれからも不安無く住み続けられるよう、生活の拠り所となる住まいの再建を支援します。

- 恒久的住宅の整備
- 応急仮設住宅の有効活用

目標人口

2024年▶55,000人

まちづくり基本目標

1 「復興する」まちづくり

県の「平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン」で掲げられた3原則「Ⅰ被災された方々の痛みを最小化する」「Ⅱ単に元あった姿に戻すだけでなく、創造的な復興を目指す」「Ⅲ復旧・復興を熊本の更なる発展につなげる」に基づき、国や県、被災した県内自治体と連携し早期の復旧・復興に向けたまちづくりを進めます。

2 「育てる」まちづくり

本市の次代を担う子どもたちが、将来にわたって主体的かつ社会の変化に柔軟に対応していくために幅広い知識と教養を身につけ、豊かな人間性と健やかな身体を養い、たくましく成長できる教育環境と、保護者に対する子育て支援が充実したまちづくりを進めます。

3 「住み続ける」まちづくり

全ての市民が、「ちようどいい！住みやすさ」を実感できる医療や保健、福祉、介護をはじめとした各種行政サービスや、生活環境の整備、そして災害対策の充実や防犯対策の向上を図ることで、将来にわたって安全で安心して住み続けられるまちづくりを進めます。

4 「持続する」まちづくり

乱開発抑制や農地・緑地の保全による土地の有効活用、少子高齢化に対応するためのコンパクトシティの形成、また継続的な流入や移住者の迎え入れを可能にする産業基盤や都市機能の整備を図ることで、持続していくまちづくりを進めます。

5 「選ばれる」まちづくり

将来にわたって豊かで安心できる生活のためには持続的発展が不可欠であるため、交流人口や移住・定住者の増加、「ちようどいい！」と実感できる環境や基盤の整備、そして、本市ブランドの確立と向上に向けた戦略的取組により、さまざまな目的に選ばれるまちづくりを進めます。

6 「活躍する」まちづくり

さまざまな交流の機会や住民が主役となるまちづくり活動、コミュニティビジネスなど、市民が参画する機会の創出により、障がいのある人や定年を迎えた高齢者層、子育てが一段落した女性、若者など、まちづくりの担い手としての役割や仕事で活躍できるまちづくりを進めます。

各エリアの重点プロジェクト

【三角地区】

- 世界文化遺産・三角西港のブランド力の強化と情報発信、観光振興
- 西港～東港エリアの総合的な観光拠点づくりと一体的なPR展開
- 地域資源を生かしたブランド復活と新たな地域間交流拠点づくり
- 済生会みすみ病院の移転支援

【不知火地区】

- JR松橋駅周辺の整備計画・推進
- 市道長崎久具線の早期完成
- 不知火小学校(仮称)校舎の整備

【松橋地区】

- 立地優位性を生かした居住環境の整備及び企業誘致の促進
- 広域防災拠点機能の強化
- 大野川リバーサイドロード線の整備
- 松橋中学校体育館等の建て替えと給食センターの整備

【小川地区】

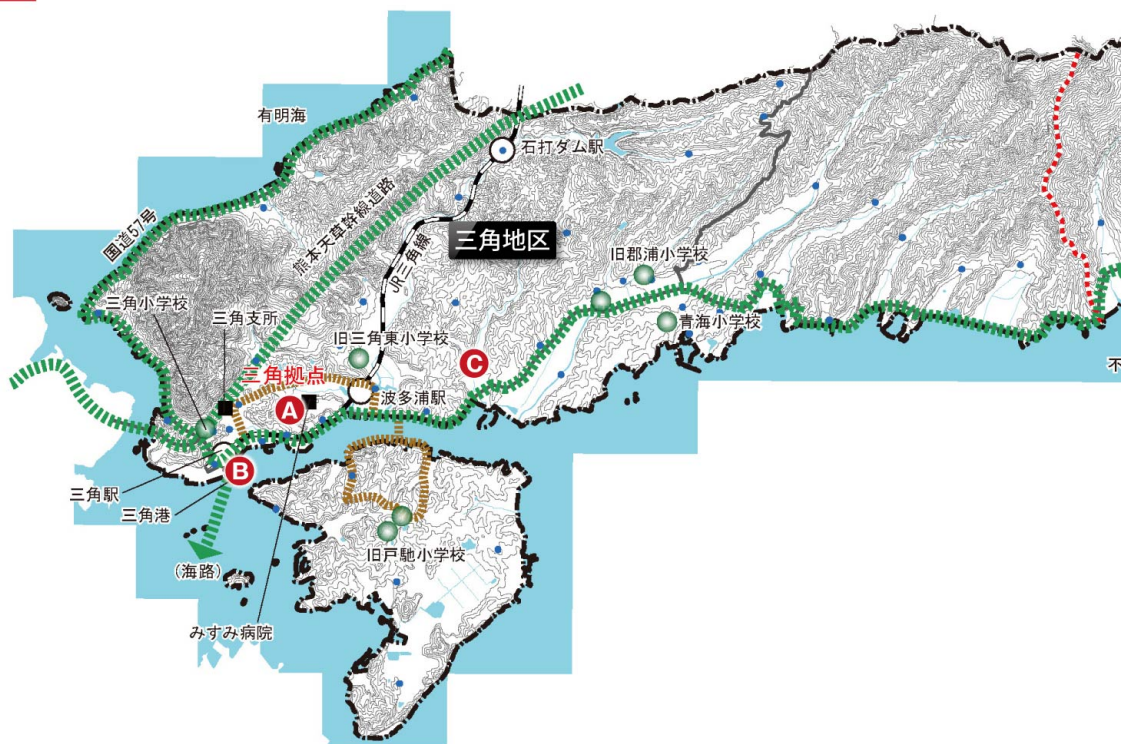
- JR小川駅西側の整備計画・推進
- 宇城氷川スマートインターチェンジの利用促進
- 民間企業と地元商店が連携した魅力ある商店街づくり
- IT関連企業のサテライトオフィス誘致促進

【豊野地区】

- 小中一貫教育の推進と充実した子育て環境のPRによる定住促進
- 復興住宅(災害公営住宅)の整備
- 国道218号の4車線化の推進及び企業誘致の取組

「ちようどいい！」
実現に向けた施策

総合計画における「ちょうどいい！」を 実現する重点プロジェクト

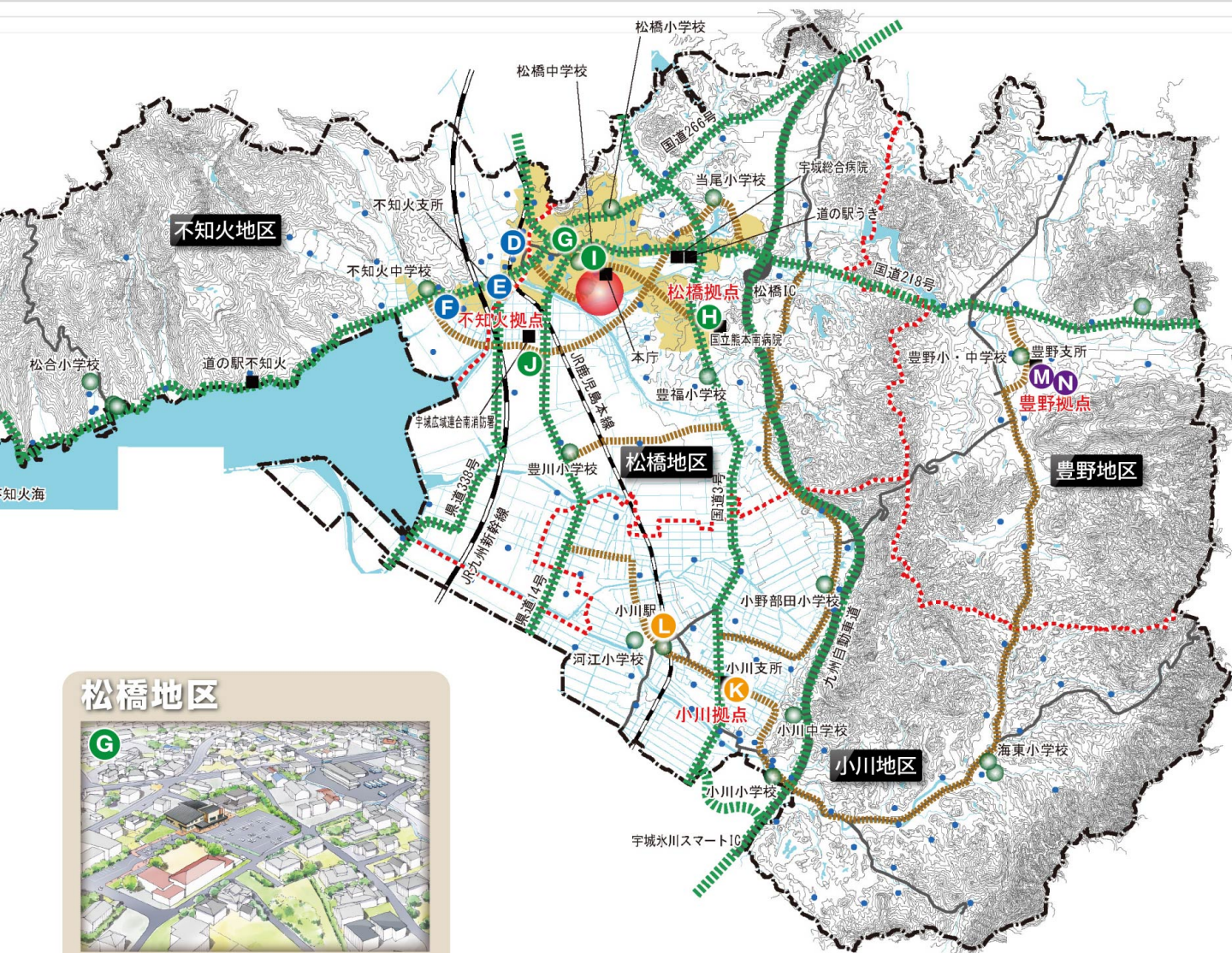


三角地区



不知火地区





松橋地区



小川地区



豊野地区





三角地区

における主な重点プロジェクト



● 世界文化遺産・三角西港のブランド力の強化と情報発信、観光振興

2015（平成27）年に世界文化遺産に登録された三角西港を誘客拠点として「楽しい」観光のフラッグシップとなるよう史跡の価値や歴史を学べる場としての施設の充実や特産品の展示・販売を通じたプロモーションの場としてのオープンスペースの活用を促進します。また、2018（平成30）年5月の大型客船「にっぽん丸」に続く大型客船の寄港誘致（ポートセールス）を通じて西港のブランド化と認知度の向上を目指します。

● 西港～東港エリアの総合的な観光拠点づくりと一体的なPR展開

JR九州の観光特急「A列車で行こう」などで訪れるツアー客が西港～東港エリアに少しでも長く滞在できるよう、体験型観光の企画・開発や回遊性のある観光地域づくりを進めるとともに、ターゲットを絞ったPRを展開します。また、新たに整備された東港緑地広場でさまざまなイベントを企画し、集客に努めます。

● 地域資源を生かしたブランド復活と新たな地域間交流拠点づくり

三角地区の大切な地域資源「^{かな けた}金桁温泉」を復活させ、新たな地域間交流施設の整備に向けて取り組みます。

● 済生会みすみ病院の移転支援

三角東港周辺に検討されている済生会みすみ病院の移転を支援しながら、既存の飲食店や商業施設と一体となって三角駅周辺を核としたコンパクトなまちづくりを目指します。



三角東港周辺地区 の将来イメージ

三角東港周辺地区においては、世界文化遺産・三角西港との連携による総合的な観光拠点づくりを図るとともに、三角港周辺に検討されている済生会みすみ病院の移転を支援しながら、三角駅周辺を核としたコンパクトなまちづくりを目指します。



三角防災拠点センター周辺 の整備イメージ

旧三角中学校の跡地に三角防災拠点センターを整備し、災害時には中長期に至るまでの避難収容や海上輸送による支援物資の集積基地等の役割を、平時には防災教育や地域のコミュニティ形成等の役割を担います。

2020年中完成予定



地域間交流施設（^{かな けた}金桁温泉） の整備イメージ

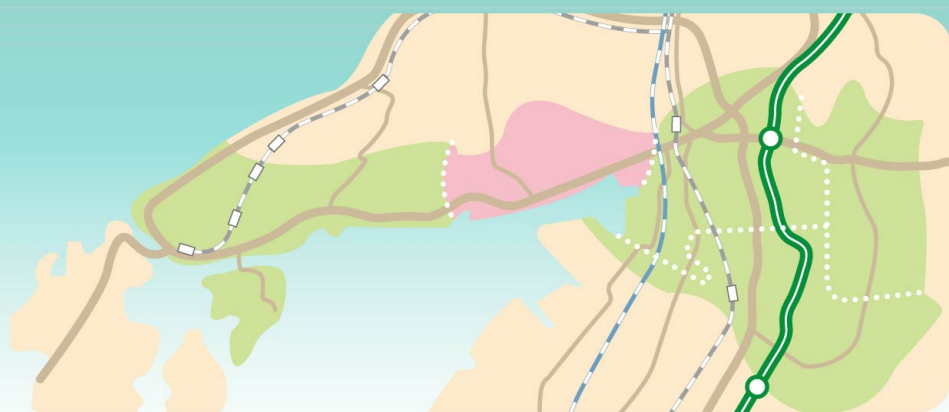
健康や憩い・癒しの場としての機能を持たせ、人と人の“つながり”を生み出す拠点として、地域の活性化に向けて取り組みます。

2020年中完成予定



不知火地区

における主な重点プロジェクト



● JR松橋駅周辺の整備計画・推進

松橋駅周辺については、「歴史・未来・自然がとけ合う、にぎわいとふれあいのまち」の形成に向けて交通結節機能の強化や商店街の活性化によって快適に安全安心な都市環境と市の玄関口としてふさわしい駅周辺の定住の場を創出し、新たなにぎわいの場となるよう整備していきます。

松橋東側については、これまで東口広場や駐車場の整備等を行ってきましたが、今後は情報発信コーナー、照明灯等の整備を進めるとともに民間施設の誘致など関係人口の一層の増加につながるよう取り組んでいきます。

更に松橋駅西側については、国道266号などの幹線道路につながる道路を整備し、アクセス能力の向上を目指します。また、今後商業施設等の進出や宅地化が進むと予想され、排水対策が急務であることから、既存の水路に加えてバイパスの役割を持つ水路を十五社地区に整備するとともに不知火支所の敷地内に強制排水施設の建設を検討していきます。

● 市道長崎久具線の早期完成

市中心部での慢性的な交通渋滞の解消を図るため、現在工事が進む市道長崎久具線の早期完成を目指します。

● 不知火小学校(仮称)校舎の整備

熊本地震で、校舎1棟が使用不能に陥った不知火小学校の校舎建て替えに早急に取り組めます。この事業を進める上では、地域の皆さんとの十分な議論を重ねながら、地域に根ざした整備に取り組めます。



JR松橋駅周辺地区の将来イメージ

JR松橋駅周辺地区においては、西口駅前広場の整備をはじめ、国道266号などの幹線道路につながる道路を整備し、さらなるアクセス能力の向上を目指すとともに、駅に近接するポテンシャルを生かした土地の高度利用を推進します。



JR松橋駅周辺地区(東側)の将来イメージ



不知火防災拠点センター周辺の整備イメージ

不知火支所の隣接地に不知火防災拠点センターを整備し、災害時には中長期に至るまでの避難収容の役割を、平時には防災教育や地域のコミュニティ形成等の役割を担います。



不知火小学校(仮称)校舎の整備イメージ

熊本地震で、校舎1棟が使用不能に陥った不知火小学校の校舎建て替えに早急に取り組みます。



松橋地区における主な重点プロジェクト



立地優位性を生かした居住環境の整備及び企業誘致の促進

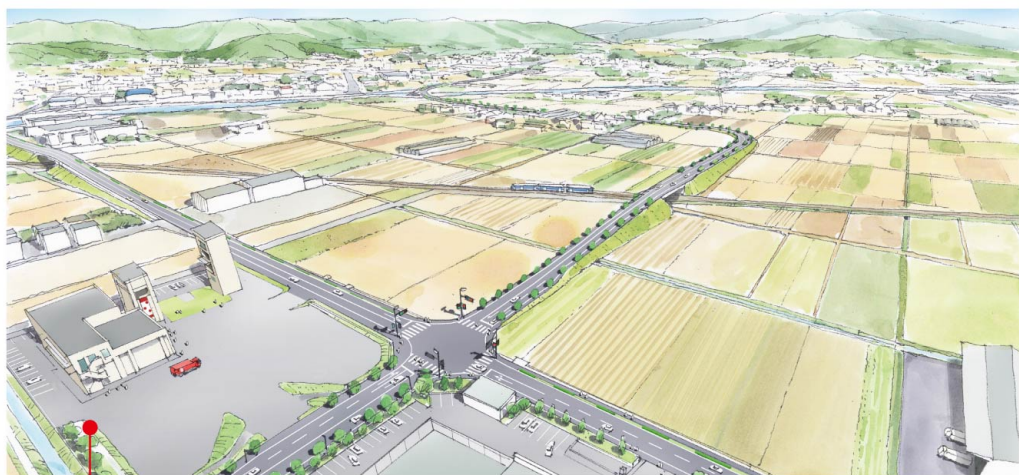
県内でも有数の交通の要衝として都市機能をさらに強化し、居住環境の整備や企業誘致に取り組むことで、今後予測される人口減少の加速度を少しでも緩めていきます。

広域防災拠点機能の強化

人口が集中する松橋校区に、広域防災拠点としての機能を有する施設を新設し、安全安心の環境づくりと地域住民の交流拠点づくりに取り組みます。

大野川リバーサイドロード線の整備

工事が進む市道長崎久具線の整備をはじめ、大野川の河川堤防を改良・拡幅し県道八代鏡宇土線などの主要道路に接続する、市街地を經由しない道路網の整備を計画し、市街地の渋滞緩和につなげていきます。



大野川リバーサイドロード線の整備イメージ

松橋中学校体育館等の建て替えと給食センターの整備

熊本地震により被害を受けた体育館等の早期の建て替えと、学校給食の安全性の確保や効率的な運営に向けた給食センターを整備します。



松橋東防災拠点センター 周辺の整備イメージ

希望の里サン・アビリティーズの隣接地に松橋東防災拠点センターを整備し、災害時には中長期に至るまでの避難収容の役割を、平時には防災教育や地域のコミュニティ形成等の役割を担います。



松橋西防災 拠点センター周辺 の整備イメージ

インダストリアル研修館の隣接地に、松橋西防災拠点センターを整備し、「広域防災拠点（本庁一帯）」や松橋東防災拠点センターの機能を補い、災害時には中長期に至るまでの避難収容の役割を、平時には防災教育や地域のコミュニティ形成等の役割を担います。



宇城市学校給食センターの整備イメージ

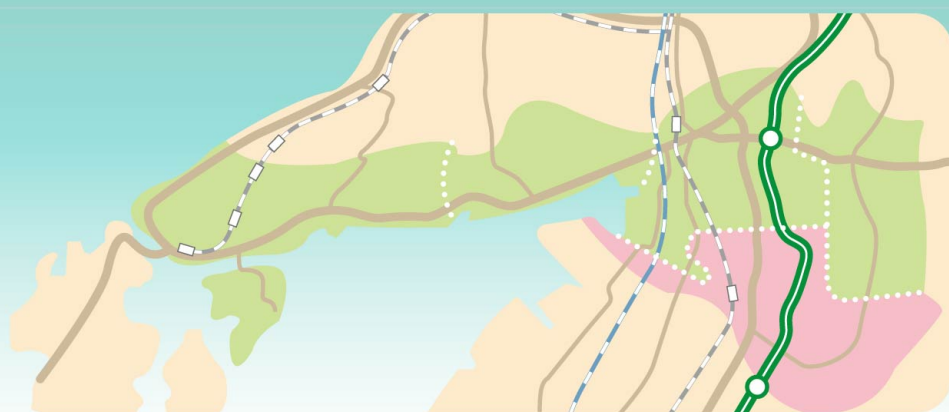


松橋中学校体育館の整備イメージ



小川地区

における主な重点プロジェクト



● JR小川駅西側の整備計画・推進

2015（平成27）年4月に開通した県道竜北小川停車場線バイパス（跨線橋）に続き、小川駅西側のさらなる整備に向けた計画に取り組みます。

JR小川駅西側地区内には駅の西口整備を計画すると共に、東西軸から駅西口へのアクセス道路を整備し、駅へのアクセス性を高めると共に、自動車による駅利用者のためのパーク&ライド駐車場の整備を検討しています。

国道3号沿線には大規模集客施設や市役所支所等の都市機能が集積しています。よって、JR小川駅周辺と都市機能が集積するエリアとをバス等の公共交通により連携強化し、利便性を高めます。

熊本県2大都市へのアクセス利便性の高いJR小川駅に新たな都市機能を挿入し、県央の新しい定住拠点を形成します。

● 宇城氷川スマートインターチェンジの利用促進

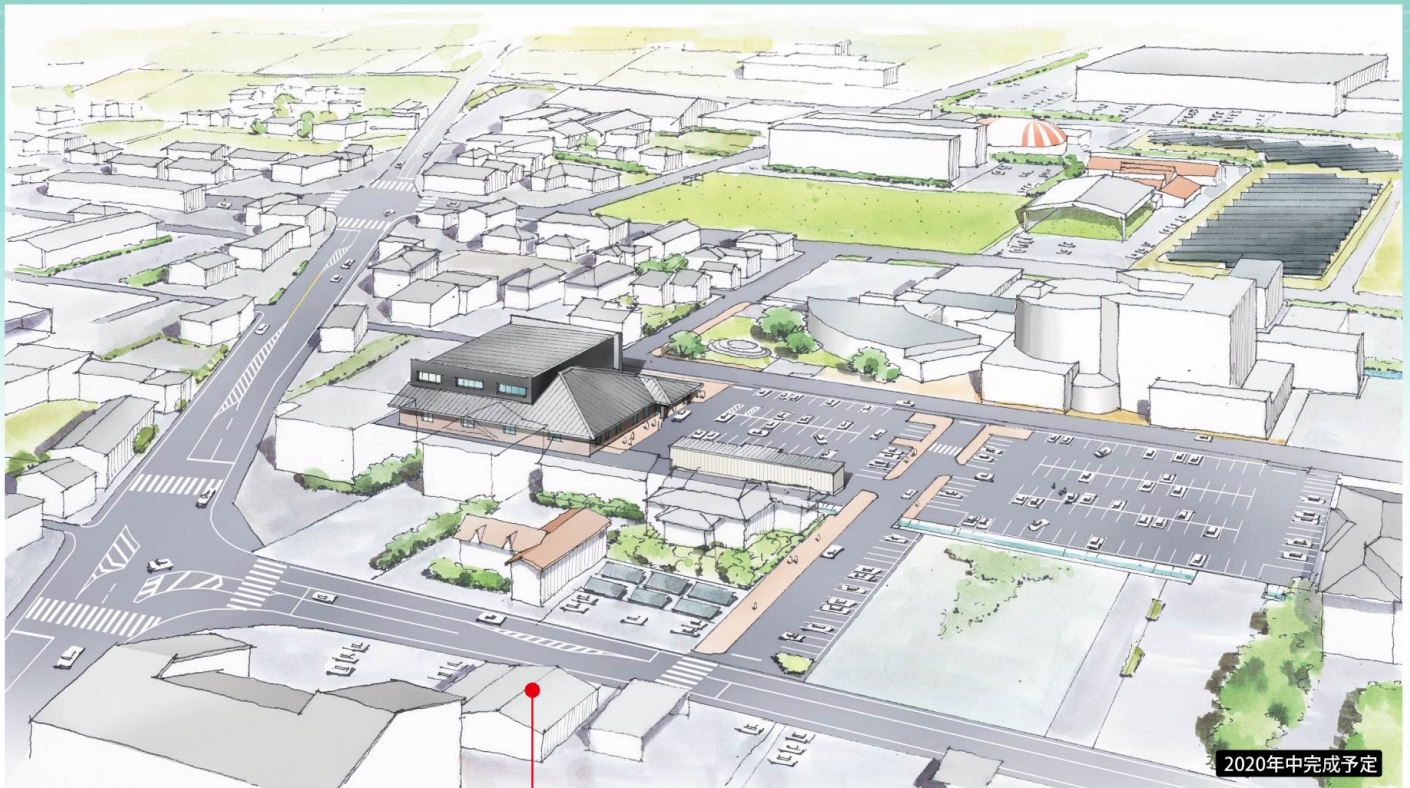
スマートインターチェンジの活用による物流や商業拠点の形成、観光資源などにつなぐことで、地域活性化と産業基盤の強化に努めていきます。

● 民間企業と地元商店が連携した魅力ある商店街づくり

商工会や商店街などと協力して既存商業地などの活性化を促進するために、まちづくりのノウハウを持った民間企業などと連携して、地域住民のニーズに対応した魅力ある商店街づくりに取り組みます。

● IT関連企業のサテライトオフィス誘致促進

2018（平成30）年4月に供用を開始したビジネスサポートセンターを活用し、IT関連企業のサテライトオフィス誘致等、特に若い世代に需要の高い事務系の雇用の創出に向けた取組を推進します。



小川防災拠点センター周辺 における将来イメージ

小川総合文化センター（ラポート）の隣接地に、小川防災拠点センターを整備し、災害時には中長期に至るまでの避難収容や陸路による支援物資の集積基地等の役割を、平時には防災教育や地域のコミュニティ形成等の役割を担います。



JR小川駅周辺地区の 将来イメージ

2015（平成27）年4月に開通した県道竜北小川停車場線バイパス（跨線橋）に続き、小川駅西側のさらなる整備に向けた計画に取り組みます。



豊野地区 における主な重点プロジェクト



● 小中一貫教育の推進と充実した子育て環境のPRによる定住促進

小中一貫教育を常に検証し、子育て環境のさらなる充実につなげて定住促進をPRします。また、ICTを活用した教育環境整備にも積極的に取り組みます。

また、学校と保護者、地域がこれまで以上に知恵を出し合いながら、未来の宝である子どもたちの健全育成に取り組むコミュニティスクール事業を推進していきます。

● 復興住宅（災害公営住宅）の整備

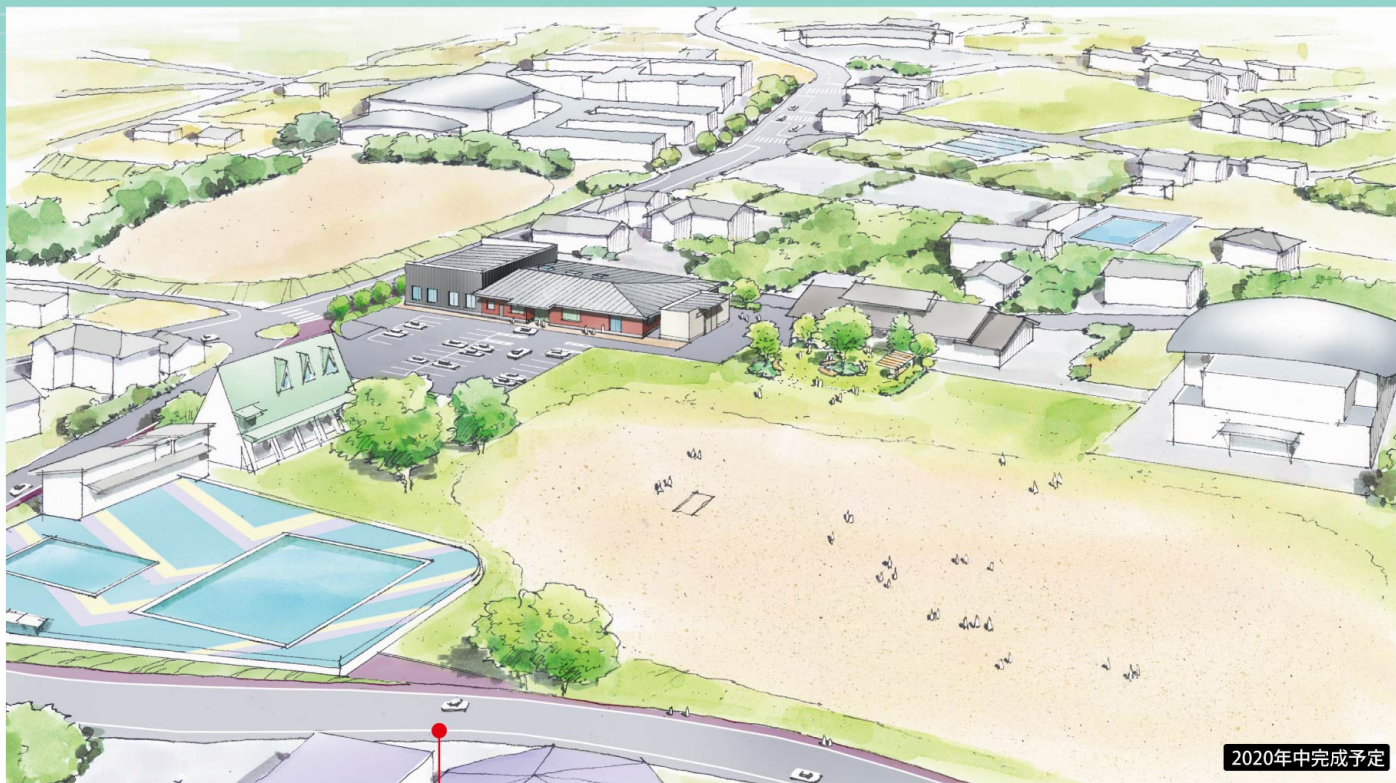
熊本地震からの完全な復興を目指し、被災者の恒久的な住まいの確保を目的として、響原復興住宅（災害公営住宅）を整備しました。

● 国道218号の4車線化の推進及び企業誘致の取組

企業誘致の取組を強化するとともに、4車線化実現に向けて関係機関に積極的に働き掛けながら最大限の努力をしていきます。

また、小集団の農地で、農業上の利用が見込まれない農地などを活用し、商業施設などの企業誘致に取り組んでいきます。





豊野防災拠点センター 周辺の整備イメージ

旧豊野小学校の跡地に豊野防災拠点センターを整備し、災害時には中長期に至るまでの避難収容の役割を、平時には防災教育や地域のコミュニティ形成等の役割を担います。



響原復興住宅の整備

2019（平成31）年2月15日から響原復興住宅への入居が始まりました。災害公営住宅は、熊本地震からの復興に向け被災者の恒久的な住まい確保のために整備を進めており、市内で全181戸を整備予定ですが、この響原復興住宅では10棟20戸が完成しました。なお、くまもとアートポリスプロジェクトによるUR都市機構からの買取り型災害公営住宅としては、県内初の完成となります。



みんなの家

和傘をイメージした穏やかで華のあるコミュニティスペースが完成し、地域住民が集う交流の場として住民を優しく迎えます。

ウキニスム

UKINISUM



宇城市復興グランドデザイン

● 発行日 ●

2019年4月

● 監修・編集 ●

宇城市企画部企画課

熊本県宇城市松橋町大野85番地

TEL 0964-32-1111 [代表]

FAX 0964-32-0110 [代表]